

平成30年度第2回中津川市公共交通会議 議事要旨

日 時 平成31年1月11日（金）13:30～15:30

場 所 中津川市にぎわいプラザ B-1 ホール

出席者 委員24名（うち代理出席8名）、事務局4名、報道関係者3名、傍聴者4名

■開会

■会長あいさつ（大井副市長）

■議題（議事進行 会長）

議題1 坂下地区コミュニティバス 上野・外洞線について

- ・議題1について説明（事務局）

【質疑・意見等】

○今井委員（株サカガワ）

- ・今回の延伸は、上野・外洞線の回送区間の途中のため対応が可能である。
- ・坂下地区コミュニティバスは全体的に過密な運行時間のため、今後、その他の路線の変更の際には、十分協議の上で変更する必要がある。

【採決】承認

議題2 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について

- ・議題2について説明（事務局）

【質疑・意見等】

○鈴木委員（岐阜運輸支局）

- ・本省様式の⑤目標・効果達成状況と⑥事業の今後の改善点の内容はそれぞれが対応するように意識して記載すること。
- ・中部様式9ページ、計画は市町村が主体となって策定するものである。「市や協議会が主体となって計画を策定した」という表現がよいのではないかと。10ページのWEBでの公開は他の自治体ではほとんどやっていない。大変良いことである。

○福本委員（学識経験者）

- ・「高齢化で乗らなくなった」ではなぜ乗らなくなったかがわからない。今まで使っていた人が亡くなって乗らなくなるのは仕方がない。対応には「新たな高齢者を取り込むために免許返納者へPRをする」といった書き方をすれば伝わる。
- ・中部様式10ページ、事業者がデータ整備する体制を整える取り組みをしていることもアピールになる。

○鈴木委員（岐阜運輸支局）

- ・クリスマスバスを実施した事業者の率直な感想を聞きたい。

○北原委員代理（北恵那交通株）

- ・今年のクリスマスバスは昨年より長期間行った。飾り付けをした保育園児が家族で乗ってくれるという効果やSNSなどで取り上げられるなど注目された。年配の運転手からは「自分も乗りたい」という話も出ていた。「仕事のやりがい」につながった。

○事務局

- ・指摘内容は事務局で修正し、中部運輸局へ提出する。

【採決】承認

■報告

報告1 中津川市リニアを活用したまちづくり構想（案）について

- ・報告1について説明（会長）

【質疑・意見等】

○北原委員代理（北恵那交通㈱）

- ・北恵那交通㈱が公共交通会議を代表して会議に出席した。
- ・案について意見があれば1月22日火曜日までに事務局へ提出してほしい。

報告2 苗木城線の運行実績について

- ・報告2について説明（北恵那交通㈱）

報告3 高山・下呂～馬籠・妻籠間特急バス実証実験について

- ・報告3について説明（濃飛乗合自動車㈱）

報告4 事例発表「定住を推進するために公共交通にできること」

- ・今年度の取り組みについて事例発表（事務局）

■その他

○福本委員（学識経験者）

- ・中津川市の公共交通の取り組みは、ここ2～3年で劇的によくなってきた。網形成計画策定をきっかけに各事業で成果を出している。
- ・中津川市は公共交通を定住推進課でやっていることがとても良い。全国に誇るべきことだ。都市計画部局が担当することが多いが、田舎の自治体では、公共交通は地域活性化や観光振興に向いている。住み慣れた地域で暮らすために公共交通はとても大切。
- ・今、経路検索の取り組みは交通分野で流行っている。中津川市は計画の事業に位置付け、それをしっかり実施して結果を出している。計画の目標を達成できてない自治体は多いが、中津川市はやらなければいけないこと、できることを計画に載せ、きちんとやっている。
- ・運転手確保の取り組みは他地域にもいい例になるし、タクシー活用にも取り組もうとしている。足の確保の取り組みに挑戦することが必要。
- ・中津川駅前案内をもっと良くすべき。経路検索に比べて地味ではあるが、バスマップなど紙情報も必要で、情報提供の仕方を考えてしっかりとやっていくべき。
- ・北恵那交通の雰囲気は良くなっている。事業者が変わると公共交通が良くなる。
- ・公共交通を良くしていくために、ここで安心せず一気に取り組みを進めて欲しい。皆さんに応援、協力していただきたい。
- ・リニアが来る前に公共交通がなくなってしまう。リニアよりも地に足がついた取り組みをしなければならない。慢心せず足場を固めていただきたい。

■議事終了

■閉会